

令和6年9月20日(金) 令和6年度第3回射水市内川未来戦略会議 議事要旨

<開催概要>

- 1 開催日時 令和6年9月20日(金) 10:00~11:30
- 2 開催場所 射水市新湊消防署3階講堂
- 3 出席者(五十音順)
 - 青井 茂 株式会社アトム代表取締役
 - 明石 あおい 株式会社ワールドリー・デザイン代表取締役
 - 五十嵐 友輔 越中祭青年会副会長
 - 加治 幸大 株式会社imizutto代表取締役
 - 高木 新平 株式会社ニューピース代表取締役CEO
 - 中川 めぐみ 株式会社ウオー代表取締役
 - 永谷 亜矢子 立教大学経営学部客員教授
 - 野口 和宏 富山湾しろえび倶楽部発起人
 - 福田 和則 株式会社エンジョイワークス代表取締役
 - 牧田 和樹 一般社団法人射水市観光協会会長

<議事次第>

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 基調報告
 - (2) 意見交換
- 3 閉会

1 開会(市長挨拶)

- ・皆さん、おはようございます。議員の皆さまには、大変ご多用の中でご出席いただき、お礼を申し上げます。
- ・前回の第2回の会議では「稼げる観光と祭りの持続可能性」をテーマに、永谷委員と五十嵐委員からプレゼンテーションをいただき、委員の皆さまから貴重なご意見をいただいた。意見交換では、特にコト消費・イミ消費という観点が観光の付加価値を高めるという意見があった。また、感覚ではなく、ファクトベースの現状認識に立つことが重要というご意見もあった。今後、戦略を考えていく上で大変重要な意見だったと思う。これから取り組んでいきたい。
- ・今回は「地域の価値を上げるエリアマネジメント」というテーマで、青井委員と福

田委員からプレゼンをいただく。青井委員は不動産業界で活躍されている一方で、まちづくり会社を立ち上げており、富山をはじめ地方都市の活性化に大変ご尽力をいただき、大都市以外から日本を盛り上げる活動に取り組んでいらっしゃる。

・福田委員は行政や事業者任せにしないまちづくり・家づくりで、自分ごと化による豊かなライフスタイルをテーマに掲げ、不動産と建築分野でご活躍されている。また、近年では人とお金の新たな関係づくりにも取り組んでおられる。

・今日のお2人からの報告を大変楽しみにしている。また、委員の皆様方から活発なご意見を賜ることを期待したい。

2議事

(1) 第2回会議ふりかえり

【高木委員】

・第2回は「稼げる観光と祭りの持続可能性」というテーマで報告と議論が行われた。主な提言は、資料にて簡単にまとめているので参照いただきたい。

・会議で出た議論の概要をふりかえりたい。

・内川に来てほしい観光客像を明らかにすべきという提言があった。内川だけでなく現在の観光は、どの地域も観光スポットを増やそうと言いながら、誰に来てもらいたいかを決められていないケースが多い。内川の観光客も、写真を撮って帰ってしまう若い世代が多いが、内川の観光客は本当に今のままで良いのか。ちゃんとお金を落としてもらって、継続して来てくれる可能性はあるのかを検討すべきだという内容を議論した。

・観光の受け入れ体制についても議題に上がった。景観だけがあっても観光客は写真を撮るだけで帰ってしまう。現在、内川では観光スポットが点在している状態だが、内川エリアとして「面」の観光を考えていくべきだという話があった。

・また、射水市においての内川のKPIが無く、何を目指して進めていくのかを設定しなければいけないという指摘があった。

・祭りの議論では、祭りでマネタイズすべきかという問題提起があった。昔は人口が増え、行政も余裕があったため地域のためだけに祭りをとり行うことができた。しかし、これから持続可能な祭りのあり方を作っていくために、有料観覧席などの新たな取り組みを視野に入れていかなければならない。

・今年から永谷委員が内川の祭りのサポートに入っただき、有料席やグッズ販売を少しずつ始めていただいている。だが、始めたばかりの新しい取り組み時で、席が余っている状況もあるというが、これからも進めていくべきだと思われる

・祭りのマネタイズは、内川の地域全体の意識を変えていくことにも関わっている。地元において祭りの役割は何なのかを、住民の中で再設定する必要があるという意見が出た。

・施策の方向性や対策は、ファクトベースで検討しなければならないという指摘があった。エリア一帯で観光を考える、祭りのガイドを設置するなど楽しみ方を充実させる、外部とも連携して観光客や支援者、アーティストが来る時の受け入れ体制の整備など、様々な施策をファクトベースで検討していきたい。

【牧田座長】

・本日は前回と同様に報告を担当する委員からプレゼンいただき、他の委員の皆さんに一言ずつご意見を伺う形式で進めさせていただく。

・今回のテーマは「地域の価値を上げるエリアマネジメント」。いわゆる「エリマネ」をどのように捉えるかという話になると思う。青井委員、福田委員からプレゼンをお

願いたい。

(2) 基調報告

【青井委員】講演資料に基づき説明

- ・私が経営するアトムでは、東京や富山をはじめとした地方都市、パリやドイツで、不動産事業を展開している。並行して教育プログラムや店舗運営、イベントプロデューサーなども行っており、食やアートと掛け合わせて多様な試みを行っている。
- ・我々は自身の事業を「まちの鍼灸療法」にたとえて、東京の大手ディベロッパーのような何千億もの資金を使う会社とは異なり、1億円から5000万円以下で見通しを立ててまちを盛り上げるアプローチをしており、どのようにまちの「ツボ押せるか」を主な商売にしていると考えている。
- ・これから日本の人口減少が加速する中で、地域間の人口の奪い合いが起きることは避けられない。そんな中で、アトムでは「IMAGINE, 100 YEARS」という言葉を掲げ、次世代に残せる遺産を作ることをミッションとして考えている。
- ・私自身は富山に住んだことはないが、アトムの社名は祖父の青井忠治が富山出身であることに由来しており、会社のロゴマークも立山連峰をモチーフにしている。今回の会議には祖父の縁で本当に純粋な愛で参加しているので、ぜひ私を使っていたきたいと思っている。
- ・現在、富山などの地方に4分の1、アジア太平洋に4分の1、ヨーロッパとアメリカに4分の1くらい滞在しており、大体月の4分の1ずつ移動する生活を送っている。今年に入ってからはまだ3周ほどだが、世界中のまちを見させていただき、今何が起きているのかをリアルタイムで把握している。今回はその知見を皆さんに共有したい。
- ・これまで紹介してきた我々の国内外の事業の他に、世界の事例としてヴェネチア・ビエンナーレとサンセバスチアンの取り組みを紹介したい。実際に足を運んでみて、私が考えた、2つのプロジェクトの共通点は、まちのコミットメントが違うということ。今日明日の話ではなく、100年単位で考えて、ヴェネチア・ビエンナーレではアートを、サンミッシェルと食をテーマに市民自らが運営している。
- ・特にヴェネチア・ビエンナーレでは、地元の小学生と先生が対話している光景がとても印象的だった。先生がヴェネチアで建築を見て学んだ体験を、子供たちに教えている。観光客のためではなく、地元の子供たちを育てることに愚直に取り組んでいる姿を見て、目には見えないビエンナーレのすごさを目の当たりしたと思った。
- ・我々は一撃必殺でエリアマネジメントができると考えていない。不動産はとても価値の長いもので、さらにエリアマネジメントというお題は5~10年でどのように回収するのかという規模の話になってしまう。しかし、我々のプロジェクトでは一朝一夕で儲けることだけを考えず、その土地に交わってくださる方が色々な情報を持ってくる、その先に移住や多拠点居住があると考えている。
- ・内川においても、1年後、2年後のことももちろん重要だが、内川がどのような未来を目指し、逆算して取り組んでいくことが、非常に大切だと思っている。
- ・今回挙げた例の他にも、アトムにはたくさんの知見がある。ぜひ「こんな例が欲しい」などがあれば聞いていただきたい。
- ・ここからは勝手ながら、私個人がもし協力するならば、あるいはもし投資するならばどうしたいか、考えたこととして、内川にレストランを3店舗作ることを提案したい。
- ・内川にある風土的な価値、文化的な価値を今一度話しておきたい。私が世界中のまちを見ている中で感じた内川の魅力は、やはり海と山にある。こんなに水がおいしく、静かなところはなかなかない。

- ・私自身も食のビジネスを展開しているが、食というコンテンツはとても良いと考えている。多くのおいしいもの食べたいと思っており、その土地でしか食べれないものがたくさんある。例えば、内川をすし県かに市しろえび町ではないが、ムーブメントに沿って仕掛けていくことも大切なのではないかな。
- ・その第一歩として、シェフの存在が非常に重要だと思う。そこで、内川に世界中からシェフが集まれるような仕組みを作ることはできないかな。
- ・例えばSNSが発達する前に、ベスト・ジョブ・イン・ザ・ワールドというオーストラリアならではの魅力を体験する「世界最高の仕事を」を体験できる観光プログラムがある。
- ・シェフをどのように内川に呼び込むかは、また議論が必要だが、まずはシェフが来る。有名でなくてもシェフが、内川の素材を使って料理を作る、作りたいと思わせるような仕組みを構築できれば良いのではないかな。
- ・次にシェフのための宿泊施設の整備も必要だ。私の知り合いの世界中のシェフたちの中には、日本の食材や水が好きで、日本のカルチャーを学びたい方がたくさんいる。そのようなシェフのために住む場所があると喜ばれるのではないかな。最初に観光客用の宿泊施設を作ってしまうのではなく、内川に来てもらいたいシェフの拠点の次に場を整備すればよいと思う。
- ・ヴェネチア・ビエンナーレを例にお話したが、大人が子供に対して、「富山ってこんなに恵みがすごいんだ」、「海産物も水も山菜も含めて素晴らしいんだ」と教えていくようなプログラムを同時に走らせることも非常に大切だと考えている。
- ・私は内川沿いで食やシェフを軸にまちづくりができれば非常に素晴らしいと考えている。結果を見たいからと言って急ぎすぎるとあまり良いことないという風に思っている。皆さんとこんな未来を描きたいという風に思っている。
- ・また、我々は結果にはコミットしているが、長い目で見て取り組んでいかなければならない不動産や地域の事業を手掛けており、未来は簡単に作れないと考えている。経済成長は大切なワードではあるものの、その価値軸を1回剥がして、内側と何が幸せなのか、何が豊かさなのかを今一度議論していきたい。
- ・内川という素晴らしい場所に、その価値もわからない何百人、何百万人の観光客を集めることは少し無理があると思っている。すでにある資産の中で、この5年をどうすれば良いのか、この10年をどうすれば良いのか。さらには100年後にこうなっていたいかを、1つずつ皆さんで議論していきたい。

【福田委員】講演資料に基づき説明

- ・エンジョイワークスという会社で、不動産の管理や仲介、設計、様々な場の運営を行っている。2007年に湘南で会社を立ち上げ、今では30か所ほどの場所の運営をしている。
- ・私は宅建の免許や設計士の資格を持っていない。一番やりたいことは、まちを盛り上げてくれる人と出会い、巻き込んで一緒にまちづくり、地域活性を行っていくこと。そのために不動産や建築設計を手段として使っている。
- ・2007年に不動産をはじめた当時は、やりたいことの実現の仕方がわからず、湘南で10年ほど実験をしていた。2018年以降は、人を巻き込む手段としてファン্ডを手段に使い始めた。それから6年間で様々な地域でもファン্ডを活用することで、共感（もしくは関係人口）とお金を集めている。また、国交省も地域に共感と金を集めることを積極的に進めていきたいということで、モデル事業として進めている。
- ・地域を盛り上げていくため、関係人口と資金をどのようにセットで集められるかを真剣に考えている。そのために、地域に関わる人を増やしていくこと、地域に小さな規模感でもビジネスが増えていくこと、加えて地域にお金が落ちる循環を作ることを

行ってきた。循環ができれば、応援する人の資金があり、事業できちんとお金が回り、地域にお金で潤うことができる。

・ファンドを手掛ける中で、地域でビジネスを立ち上げる挑戦者を支援する方々の規模が、地元の金融機関や大手企業も取り組みに参加していただけるようになった。今回は、地域経済圏で調達するファンドのプロセスの紹介と、取り組みの中で感じた人材育成と、地元の間支援組織の存在の必要性を共有したい。

・ファンドでは不動産を起点にすることで対象をわかりやすくしている。取り扱う不動産は、あえて空き家などの有休不動産に着目している。

・空き家不動産は、物件を右から左に売買して仲介手数料で稼ぐためでなく、地域の皆さんと一緒に考え、活動するための舞台だと捉えている。例えば、1件の空き家を使っておもしろいことができないかを皆さんと考え、企画→事業計画立案→資金調達→工事→場の運営の一連のフェーズに「関わり代（しろ）」を作ることで参加できる接点を作り、楽しそう、おもしろそうと思ってもらうことで、少しずつ人が集まってきてくださる。そこにあえてお金を噛ませることで、皆さんとの関係をより深く、長くしていけると感じている。

・具体的な接点として、ワークショップやDIYに参加していただいている。接点が増えれば増えるほど、皆さんにとって自分事化できる場所になる。

・この取り組みは、とても手間がかかる。皆さんから色々なアイデアを出していただける分、取りまとめることはとても大変。しかし、多くの人に関わっていただき、アイデアを出していただくことで、小さな事業の成功の種は見つかると思える。実際にコロナ禍でも、このスタイルで皆さんと一緒に作った事業は、かなりの確率でうまくいっている実績がある。面倒でもやる価値のあるものだと感じている。

・成功事業の種はファンドを使って、他のエリアに広げたり、事業自体をスケールさせている。ゼロイチの事業を作るフェーズから、広げるフェーズに移行すると、さらに関わっていただけるステークホルダーの幅も広がる。

・広げるフェーズで重要なことは、地域のディベロッパーや建設業者、交通・エネルギーインフラの企業や自治体との繋がりだと考えている。特に地域に密着している人たちは、一緒に地域を盛り上げようという意識を持たれている方々が多い。

・実際にファンド組成した時に投資をしてくださる方は、事業に共感いただいているというところが大きい。また、参加型のスタイルのため、意見も反映されやすく、実際に事業に参加しているような感覚を持っていただくことに楽しさを感じてもらっている。

・投資には当然、財務リターンが大事だが、共感や参加意識によって期待調整をしていただいている。他にも、ファンドを運営する上では情報開示を積極的に行っており、いずれは自分たちで事業をやりたいと思っている人たちにとっては、一口投資をすることによって、自身の事業に取り組むシミュレーションの機会に捉えている方も多い。

・ファンドは作る・育てる・持続させる、の3つに分けて考えている。

・作るファンドは不動産寄りのファンド。短期でキャピタルゲインを得るようなタイプで、具体的にはファンドで地域の空き家や古い家を買取り、リノベーションして、住みたい方に販売をさせていただく。より魅力的な不動産になるように、我々が独自でコミュニティの醸成されやすい仕掛けを持った分譲を行うこともある。例えば、塀や柵を無くして庭を共有できるようにするなど、共有するものがあることで対話が生まれやすい仕掛け作りをしている。

・育てるファンドは、ゼロイチの事業を生み出す仕掛けとして、廃工場をシェアアトリエに、空き家を民泊に、古民家をビールの醸造所にするようなことを、地域住民と一緒に企画をして、資金も出してもらって作り上げていく。また、すでに地域でこの

ような取り組みを行っている事業者がいれば、所有している不動産をファンドに売っていただくこともある。このような事業者は複数の事業を抱え、バランスシートがいっぱいになっている状況になっていることが多い。ファンドによって事業が進みやすい状況を作ることにも取り組んでいる。

- ・今回の内川が点・線・面と広げていく中でどの段階にあるのかは、皆さんに伺いたい。我々は点から段階ごとに広げていく上で、人と金を増やすことをセットで行っている。

- ・点の段階では、具体的には小さな店や、住宅、ゲストハウスを作っている。その際には、我々のファンドだけでなく、購入型のクラウドファンディングの活用や政策金融公庫の支援などの形でも資金調達をして実現している。場所を起点に地元の方や事業のファンを獲得し、コミュニティ作りのきっかけにする。

- ・線の段階では、より関係人口を増やし、お金を循環させていく。事業の形としては、多世代の交流拠点や地域内外の人と交流する施設を作る、地域にシンボリックな建築があればそれを点に宿泊施設を立ち上げることが多い。線のフェーズになると、新たなチャレンジをする事業者を育成する必要がある。我々は事業者育成型公募と名付けたプログラム展開しており、既存の事業者との繋がりを強固にしたり、新たな事業者とのネットワークを広げるなどの成果を得ている。

- ・面の段階では、まちづくりファンドのようなものができており、地域によってはふるさと納税を活用するなど自治体にも参画いただく他、金融機関が融資をすることも起きる。この段階になると、エリアリノベーションのようなイメージが出てくる。

- ・ある程度エリアの活用が進むと大手企業が参入するなど、地域住民の方から大手企業まで、地域が幅広いステークホルダーに支えていただいているような状況になる。

- ・人材育成や地域のチャレンジを支援する中間組織を作ることは、非常に重要だと考えている。

- ・中間支援組織があることで、ずっとまちに住んでいる皆さんの繋がりをきちんと意識しながら、このまちをどうしていきたいかビジョンを共有し、事業者を支援しつつ達成を推進する。

- ・そのような組織を作る支援者として、今の内川のエリアにおいて、地域の皆さんがどのようにまちの未来を考えているのかを伺いたい。

- ・交流人口から関係人口、定住人口を増やす流れが理想的と言われているが、人口が減る中で、エリアに定住してくれる人を増やすことは難しい。

- ・我々は関係人口のその先に地域の株主人口のような、お金を出して積極的に地域を支える人を増やしていくことを、各地でできると良いと考えている。

(3) 意見交換

【牧田座長】

- ・青井委員、福田委員、ありがとうございました。

- ・それではただ今のプレゼンで拝聴させていただいたことを踏まえ、皆さんから一言ずつご意見やご感想を頂戴したい。

【永谷委員】

- ・いろいろな地域のアドバイザーを務めているが、観光だけでは地域は壊れてしまう。人を呼ぶだけの戦略は本当にやめた方がよいと思っている。

- ・射水市が観光PRで台湾を訪問するとのことだが、バスツアーだけでも地域が大変な状況になってしまうかもしれない。

- ・青井委員のご報告にあったように、改めて地域の風土や文化、価値を見直すことは

非常に重要だと思った。

・例えば、今の内川の見せ方が悪いわけではないが、全て同じパターンの露出になっていることは課題だと思う。内川について何を検索しても、浴衣を着て、カフェに寄って散策し、写真を撮るコースと橋の紹介をした記事に辿り着いてしまう。外からの見られ方を意識していきたい。

・「関係人口」も危険なワードだと思っている。増えればよいという話ではなく、どういふ人が増えればいいのかを考えたい。私も内川は大勢の人が来ればよいわけではないと考えているので、マネタイズして維持していけるようにしたい。祭りも苦戦している状態ではあるが、外部との連携によってノウハウを溜めていく。

・青井委員の提案が具体的でとてもよかった。私は以前の報告で、テーブル1卓を出す提案をしたが、他の地域でも実現は難しい。協力いただける地域のプレイヤーと連携できる必要がある。福田委員の報告にあったように、地元のインフラ事業者や協力者、ステークホルダーをリスト化して、可視化するなど、アイデアを話して終わりにならないようにしたい。いつから何をやるのか決めていけるとよい。

・空き家の活用問題は全国各地で課題。以前、井波エリアでまちづくりに携わっている山川智嗣氏とイベント登壇し、文化はビジネスと両立するのかについて話した。井波はきっちりブランディングされている。東京の代々木公園にあるパン屋が、次の店舗を井波に出店したいと話しているということも起きている。近くに事例があるので、内川でも不可能ではないと考えている。

・自身は山梨県の富士吉田市に5年間関わっている。空き家活用で言えば、地域の建具屋にリノベーションしてもらい、使ってもらえるようにするところから始めている。また、富士吉田では布をテーマにした芸術祭（FUJI TEXTILE WEEK）を催しており、アーティストが地元の機屋に発注して布で表現する場を作っているが、イベント終了後はスペースを貸し出している。

・青井委員が紹介していたビエンナーレは、資金は必要だが、建築ツーリズムは注目を集めている。普段入れない建築の中を見せたり、廃墟ツーリズムも流行している。

・今回実績をもとに提案いただいているので、今日話したことをいつから・どうやるのかを具体的に決め、実現に向けて動きたい。

【野口委員】

・青井委員が報告の中でおっしゃっていた、100年スパンでゆっくり変わっていくという言葉が印象に残っている。

・私自身が内川沿いに住んでいて、急速な変化に不安を感じる住民が多いと思う。

・年数は別として、住民も含めて会話をしながら時間をかけて変わっていけたら良いと思う。

・福田委員の報告では、ファイナンスや資金集めの重要性を再認識した。

・自身もしろえび漁を通して内川に興味を持ってほしいという思いで観光船を始めた。お金目的ではないが、お金がないと続けることが難しく、事業を継続できないと考えている。ボランティアの状態が4、5年続いているため、活動を見直す時期に来ていると思う、運営内で会話をすることもある。

・コロナがあつてなかなか周囲を巻き込めなかった反省点もある。

・もうしばらくは現状維持で活動を続けたいと思うが、活動のためには資金の計画性がないと苦しいということは、今日改めて思い知らされた。

【明石委員】

・青井委員の報告にもあった「風土と文化の価値」をもう一度考え直すことは、本当

に必要だと思う。報告を聞きながら改めて、私が初めて内川に来た時の地域全体から感じるなんとも言えない雰囲気について思い出していた。

- ・この雰囲気について、地元のテレビ局に話したのは、自分の生活の中の必要性から、自由奔放に開発をしたり改築をしたりしているが、外から見ると申し合わせたかのような統一感があるということ。トタンの色や素材、洋風の家などバラバラなのだが、何か統一感があるところが自身が内川にぐっと来たポイントだったと答えた。

- ・県内にも井波や岩瀬といった素敵なまち並みのエリアはあるが、内川は自分も介入できそうな「ゆるさ」があり、「DIY魂」を発揮しやすい。最近はその魅力を感じている人が多いのではないかと感じる。地域の伝統的な祭りや歴史的なものだけでなく、フランクな気質が内川には漂っていると思う。

- ・福田委員の報告にあったように10年20年単位でまちを見ていく必要があることは、その通りだと思う。「関わりしろ」を作るというお話は、とても手間がかかる一方で、ビジネスとして成立させなければいけないところもあるが、私はその場にいるというパワーを大事にしたいと思っている。ビジネスとしてあまりお金をかけられなくても、その場にいることができる人たちが、実は財産になり得るのではないかと。

- ・例えば、私は路地で紙もののお店を1時間ほど店を出して3年が経つ。1時間だったらお店を開けられる人たちがたくさん出てくれば、お店の周辺を回ろうという人たちも出てくるのではないかと。実際、インスタグラムの告知を見て、わざわざ来てくださる方もいる。

- ・「人がいる」「お店が開いている」という情報が、一人ひとりでは大変だが、合わされば24時間、30時間にもなっていく。そうすれば、エリアとしての魅力も増すのではないかと。

- ・個人で幅広く頑張るだけでなく、一人ずつがちょっとずつやっていることが束として見えることが、とても理想だと思っている。

【加治委員】

- ・青井委員のレストラン出店の提案は非常に可能性があると思った。

- ・アイデアをもとに、いろんな人が意見を出し合って、地域全体のありたい姿を描いていくことが非常に大事だと思う。まちづくりのやり方も様々だが、まずイメージがあり、色々な人の意見を聞きながら盛り上げていくことで、今住んでいる人たちも何かやってみようという思いを持つようになっていくというやり方もよいのではないかと。自身の活動の意図するところでもある。

- ・地域をよくしようと思った時は、まずはそこに住んでいる人たちが豊かで幸せになることが第一優先だと考えている。地元の人達の思いをしっかりと聞きながらまちづくりに取り組んでいきたいと改めて思った。

【五十嵐委員】

- ・自分自身、地元でずっと暮らしてきて、祭りに親しんできたことから、昔から内川の風土や文化の価値を感じてきたと思う。しかし、外に発信することはしきれておらず、地元の同級生ら若い世代では内川の価値を感じていない人もおり、内川がどのような形で取り上げられているのかもわかっていない人もいると思う。

- ・外部からの視点も含め、地元の魅力をしっかりと伝えていける場がもっとあればよいと思った。

- ・福田委員の報告の中で点・線・面という話があったが、最近の内川は点になるような店が増え、地域外の方が携わっていることも多くなってきた。地元の人間として何ができるかを考えた時、自分は祭りで貢献できればと活動しているが、内川に熱量を

持った地元の人たちがもっと参加できれば、内川ならではの雰囲気もさらに増すと思うので、多くの人を巻き込んで地域づくりを行っていききたい。

・地元の人も巻き込んだ地域づくりをしていけば、改めて内側の勝ちの共通認識も浮かび上がってくると思うので、地域の新しい作り方を築いていきたい。

【中川委員】

・二人の報告を聞き、「エリアマネジメント」は建物や不動産ではなく、人から始まって人へ還元されるべきものだと改めて学ばせていただいた。

・エリアマネジメントの主役を考える時、観光客になりがちだが、私は住民の方たちが第一の主役になるべきだと思う。住民の方がたが望む先にマネタイズや、持続性を考えていく。この順番がとても大切だと思った。

・この順番の上で、青井委員の報告にあった内川の幸せの認識を合わせ、回帰し続けることが大事だと思う。そのためには、内川の風土的、文化的価値を、住民を巻き込みながら考えていくことが重要だと考えた。

・今までお邪魔させていただいて、このまちはすばらしいと思った地域の共通点は、建物や景観自体ではなく、そこに住む人が見えること。まち自体が人格を持っているような感覚があること。明石委員の発言にも繋がるかもしれない。

・まちの人格が見えるようなエリアマネジメントは、最初の価値設計を丁寧にいき、長い時間をかけてみんなで作り上げていくことが大事だと思う。

・きちんとこの段階で内川の未来に向けてのすり合わせをしておく。みんなで決めたことを焦らずにきちんとやっていくことが非常に大事だと思った。

・また、永谷委員の発言にあったように、アイデアだけで終わらずに、誰が何をやるのかまで落とし込まずに何も進まないという問題は各地であるので、レストランを3店舗なのか、初動の具体的なアクションまで落としこんでいくことをしていきたいと感じた。

【高木委員】

・地域の未来について考える時、地元と東京のことばかり考えてしまいがちだと思う。他の地域の観光を見て、真似ることはまだできているところは少ないのではないかな。この会議に参加している委員は、たくさんの地域に足を運んでいると思うので、その知見を活かし、他の地域の先輩方のやり方を良い意味で真似て、どんどん取り入れていくべきだと思う。

・行政の施策では単年度、長くても3年ほどの期間になってしまいがち。それに対して、会議ではもっと長い時間軸でどうしていくか、ここにいるメンバーやコアになる人たちで、長い時間軸でどうするか、共通認識を持つことが大事だと思う。

・青井委員の報告や永谷委員の発言から、アイデアを誰が何をやるのかという具体的にシンプルなアクションを組み立てることが大事だと思った。また、福田さんの報告にあった、1年、5年、10年がわかりやすく、何十年先のありたい姿に向かって、期間で区切ってアクションを決め、簡潔なアクションリストに落とすアプローチも有効だと思った。戦略会議のひとつの成果物にしたい。アウトプットにしなければ、議論をどう活かすかで動けなくなってしまう。

・議論はまだまだ続くが、抽象的な価値を議論しながら、クリティカルでシンプルな打ち手を考えていきたい。

【牧田座長】

・委員の皆さんの感想や意見を伺うことができた。報告者の青井委員と福田委員からコメントがあればいただきたい。

【青井委員】

- ・福田委員の報告を聞き、プロセスの大切さを再認識した。資金をどのように集めるのか、また誰が活動するのは大きな問題。我々は不動産会社のため推進することが多いが、地域の皆さんの力を借りることは非常に大切だと思った。
- ・株主人口を巻き込むことはとても時間がかかり大変だと思うが、一度関わればその関係性は続いていくと思った。自分で買った株の会社の業績は気になるし、その商品を買ってみることもあると思う。もっと地域へのコミットメントが高い関係人口が株主人口だと思い、とても勉強になった。
- ・私自身、各地で会社を立ち上げ、地元の方やステークホルダーと力を合わせる中で、互いの専門領域を活かしながら一緒に会社を作ることは夢があつていいと思っている。
- ・100年は一つのメタファーだが、今は儲からなくても長い年月で捉え、自分が死んだ後にリターンがあると信じて、子供の世代に引き渡していくこともロマンがある。「株主人口」という言葉が良いと思った。
- ・有言実行のもとコミットし、ここにいる仲間と株を持ち合うことも素晴らしいと思うし、いろんな人を巻き込んで、お金だけでなくしろえびなどのお金以外の価値あるものも含めて循環させていくのが令和の経済圏なのではないか。

【福田委員】

- ・青井委員は、多くのまちづくりの試みを形にしてこられた方なので、一つひとつの言葉に説得力や心動かされるものを感じた。
- ・内川の皆さんに伺いたいことがいくつかある。
- ・今の内川で、こんなエリアになっていきたいなど話し合われたことがあるか。アウトプットがあれば教えていただきたい。
- ・また、内川は点・線・面のどの段階にあるのか伺いたい。実際に最近の内川では点になるようなお店ができて始めている印象があるが、繋がりを生むような機会や仕掛けがあるのか。いわゆる線はできているのか。もしくは、すでに面になっている状況なのか。
- ・最後に内川にまちづくり会社や中間支援組織のような存在はあるのか。あるいは、この会議がそういった組織体が変わっていく風に考えているのかを伺いたい。

【牧田座長】

- ・福田委員から3つのご質問があった。①過去に地元住民で内川の未来を想像したことはあるか。また、アウトプットはあるか。②今の内川は点・線・面のどのフェーズにあるか。③内川にまちづくり会社や中間組織のようなものはあるか。また、この組織がまちづくり会社になってく可能性はあるのか。
- ・3番目の質問は、市長や佐野課長にも答えていただきたい。まずは先の2問について、地元の委員からコメントをいただきたい。

【明石委員】

- ・アウトプットについて、県内外の人たちが訪ねて来た時に、特にシェフの方は、内川に沿うようにテーブルをずらっと並べて屋外で食べてもらいたいという話をよくされる。それはぜひやってみたいと思う。
- ・せっかく自然のものがまちの真ん中をどどんと流れているので、その内川を今までとは違う形で、使えることがあるとよい。シェフならば川沿いにテーブルを並べた

り、そうでない人たちも川を使って何かできると良い。以前、内川で仮装行列をしていたという話を聞いたのを思い出した。川そのものを使って何かやりたいという思いがある。

・点・線・面の話では、私は面に近づいていると思う。10年以上前、川の駅が唯一、外の人を受け入れる拠点としてあった時期を知っている私たちから見れば、だいぶ面に近づいた印象。しかし外から見れば、まだ周遊できるような限界性は足りないと感じている。

【野口委員】

・ルートができているかは疑問だが、昔は地元の人しかいなかった所に、観光客はかなり増えてきており、住民の視点から言えば、点から受け皿としての線にはなっている印象。明らかに今の方が地元ではない方に話しかけられる回数が明らかに増えた。

【五十嵐委員】

・私もアウトブットはまだできていないと思う。自分が高校生の時に「人生の約束」という映画が公開されたことをきっかけに、内川の土地やいろんな店が撮影されたことで脚光を浴び始め、地元に住む私たちも価値を感じ始めた。それから10年ぐらい経つが、なかなか時間はかかる印象。

・地域住民の間では祭りなどを通して面になるかもしれないが、最近では店も増えてきて、客足も伸びているイメージはある。しかし、地域住民と観光客、事業者が結びつく機会は作れていないと思う。

・新しい試みと一緒に、地域住民のやりたいことも一緒に取り組むなど、いろんな内川の使い方っていうのはできると思う。

【加治委員】

・アウトブットとしては、10年ぐらい前に地元の若い仲間たちと一緒に射水を世界に発信しようということで、ギネス世界記録に挑戦することをやっていた。地元に住む人たちの思いで何かやりたいということで、活動していた。

・また、音楽で射水を発信しようとONEFESという音楽フェスも開催している。8abliSH TOYAMAというビーガンカフェを経営しており、東京から人を呼び込む拠点も作った。他にも私有地を買わせていただき、アイスクリームの製造拠点を作り、観光の受け皿にしようとしている。これらの活動のために株式会社imizuttoという会社を作り、進めている。

【牧田座長】

・加治委員は、内川は点・線・面のどこにあると考えているか。

【加治委員】

・地域創生事業として、海王丸パークから内川をエリアとして、カフェやアイスクリーム製造拠点を作り、観光の受け皿になろうというような形で、独自で進めている。

【牧田座長】

・ありがとうございます。では、3番目の会議の今後のあり方について回答お願いしたい。

【夏野市長】

・行政の視点から質問についてお話させていただきたい。この数年間は内川沿いでウォークアブルなまちづくりにチャレンジしようと、近隣のお店や住民の方に協力いただきながら、水辺の開放ウィークという取り組みを行っており、一つのアウトプットだと思っている。まさにここにテーブル出していただき、ワークショップのようなイベントを実施。今年も開催を予定している。

・また、昨年度末に内川沿いで新しく事業を構えていただいた事業者の方や、地元の方に、内川の良さや課題について話し合いの場を設け、取りまとめた。その場で課題を洗い出しながら、次に進んでいく要素にしたいという段階。

・解放ウィークの取り組みなどで鮮明になりつつある部分もあるのかもしれないが、まだ乗り越えていかなきゃいけない課題もある現状。

・まちづくり会社や中間支援組織については、昨年度末までの段階では、国からの地方創生のお金をいただき、新湊のまち全体でいろいろな取り組みをしていた。取り組みを担っていただくまちづくり協議会を作っていたが、資金の期限が終了したので、中間支援組織のようなものを今後どうしていくかは課題になっている。

・この内川未来戦略会議が戦略を策定し、進めていく上で、この戦略会議の皆さんをメンバーにして作る形になるのか、行政が資金を出しながら地元のプレイヤーの皆さんにも参加いただき作っていくような形になるのかは、まさに今日のテーマであるエリアマネジメントで、どのような未来を描きながら、どこを踏み込んでいくのかによって変わってくる可能性があると考えている。

・必要性については、まちづくり会社や中間支援をしていく組織は間違いなく必要だと感じている。

【牧田座長】

・福田委員は感覚としては掴めたでしょうか。

【福田委員】

・はい、ありがとうございます。

【牧田座長】

・時間も迫ってきたので、取りまとめに進みたい。

・今日報告いただいたお2方は、やはり結果を出してこられた方々ということもあり、凄みのあるプレゼンだった。

・今日の青井委員と福田委員の提言は2点に集約できると思う。1つ目はレストランを3店舗出店する。そのためにシェフと宿泊施設と学校の3つに加えて、アクセスも重要なポイントではないかと思う。

・陸の孤島のような場所を求める人もいるが、少なくともレストランを展開していく上では、商売として持続可能性が必要。人が来てもらうことも含めて考えたい。

・どのように事業化していくかについては、福田委員の遊休資産の活用と地域インフラ事業者との掛け算が大きなポイントになってくるのではないかと考えている。

・今回のプレゼンの成果も含め、これまでの3回の会議で様々な視点から積み上がってきたと思う。各回の振り返りも踏まえて、4回目以降、皆さんと議論していきたい。

・また、会議のフェーズも進んでいるので、会議の最後には内川の風土的価値や文化的価値をどのように見つけて、どう活かしていくかを考えていきたい。

・ぜひ、これらの内容を踏まえていただき、今後の議論に参加していただければと思っている。

3閉会

【事務局】

- ・ 次回の第4回会議は、10月15日水曜日午後1時半から、場所はクロスベイ新湊2階ICAホールで開催する。
- ・ 会議のテーマは、水産資源や海辺を活用した観光とし、野口委員、木村委員、中川委員から応答、プレゼンテーションをいただきたい。
- ・ 以上で令和6年度第3回内川未来戦略会議を閉会する。本日はありがとうございました。